

# 葉と幹

小川未明

青空文庫



ある山やまに一本ぼんのかえでの木きがありました。もう長いことその山やまに生はえていました。春はるになると、美うつくしい若葉わかばを出だし、秋あきになるとみごとに紅葉こうようしました。

町まちから山やまに遊あそびにゆくものは、その木きをほめないものはなかったためあります。

「なんといいかえでの木きだろう。」と、子供こどもも年寄としよりも、みなほめたのであります。

けれど、木きはがけの辺ほとりに立たっていましたので、みなは欲ほしいと

おも思つても、取る（と）ことができませんでした。

あるとき、そんな（ひとびと）に人々がほめるのを、かえでの木（き）は聞いたところから、幹（みき）と葉（は）とがけんかをはじめました。

「こんな（ひょうばん）に評判（ひょうばん）になつたのも、俺（おれ）が幾年（いくねん）もの間（あいだ）、こんな（さびしい）険（けわ）しいところ（がまん）に我慢（がまん）をして生（せい）長（ちやう）したからのことだ。

俺（おれ）の姿（すがた）を見て（み）くれい。雪（ゆき）のためには、ある年（とし）はおされて危（あや）うく折（お）れそうになつた（あ）り、また、ある年（とし）の夏（なつ）には、大（おお）雨（あめ）に根（ね）を洗（あら）われて、もうすこし（じばん）のことで、この地盤（じばん）が崩（くず）れて、奈落（ならく）の底（そこ）に落（お）ちるか（しんぱい）と心配（しんぱい）した（お）ともある。いま、おまえ（おまへ）がた（おど）が、踊（おど）つたり、跳（は）ねたり、のんき（たいよう）に太陽（たいよう）に照（て）らされて笑（わら）つたり、風（かぜ）に吹（ふ）かれて唄（うた）をうた（うた）つたり（おも）することが（おも）できる（おも）のも、だれ（おも）のお蔭（かげ）だ（おも）と思（おも）つても、取る（と）ことができませんでした。

うか。けっして俺おれのご恩おんを忘わすれてはならんぞ。」と、幹みきは、葉はに向むかっていいました。

すると、木きにしげっている葉ははいいました。

「それは、一刻ときだって、あなたのご恩おんを忘わすれはいたしません。けれど私わたしたちだって、ただ踊おどつたり、笑わらつたり、跳はねたりしているのではありません。いくらずつか、あなたのおためにもなっているのをございます。もし私わたしたちがなかつたら、やはりあなただつて、そうしていつまでも達たっしや者に生いきてはいられないのをございます。」

「そんなら、おまえたちは俺おれを守まもっているというのか。」と、幹みきは叫さけびました。

「さようでございませす。」

「ばかばかしい。早く死はやくんで失うせろ。いくらでもおまえがたの代かわりは生うまれてくるわ。」と、幹みきは体からだを震ふるわして怒おこったのであります。

## 二

ある日ひ、くわをかついだ男おとこと、もう一人ひとりの男おとことが、がけの上うえに立たちました。二人ふたりは、上うえを仰あおいで、かえでの木きをながめていました。

「ここからは、とうてい上あがれない。あちらからまわってゆかな

ければだめだ。」

と、二人ふたりはいつていました。

これを聞いた葉ははびつくりしました。

「あんまり私わたしたちが美しいもので、とんだことになってしまいま

した。」

と、葉はは幹みきにいいました。

「うぬぼれてはいけない。おまえたちぐらの葉はは、この山やまにぎ

らにあるじゃないか。人間にんげんどもは、俺おれの姿すがたを値ね打ちにしようと

思おもっているのだ。」と、幹みきは葉はを冷れい笑しょうしました。

「しかし、私わたしたちは、この山やまからどこへゆくのでしょうか。もう海うみ

を見るみこともできません。あちらの平野へいやを見下ろすこともできま

せん。たいへんなことになりました。」と、葉は氣をもみはじめました。

「おまえたちのことを俺が知るものか。人間どもは俺を大事にするだろう。苦しいのもすこしの間だ。じきにどこかいいところへ移して、俺の弱らないようにするにちがいない。そして、また来年は新しい芽を出して、俺の威厳がいつそう加わるだろう。」と、幹はいいました。

「そんなら、私たちはどうなるのですか？」と、多くの葉は、泣き声を出して訴えましたが、幹は黙っていました。

「ああ、ここまで上ると、よい景色だ。海が見える。」と、先刻のくわをかついだ男は、かえでの木のそばに現れていいました。



ふたりのおとこ  
 二人の男は、ついにかえでの木を掘り出しました。一人はその  
 木をかついで、一人はくわをかついで、ともに山を下りました。  
 そして、かえでの木を車の上に乗せて、ガラガラと田舎路を引  
 いて町の方へとゆきました。  
 「ああ、水が飲みたい。ああ、息苦しくなった。」と、道々、  
 葉は訴えましたけれど、幹は、黙っていました。この男は、あま  
 り植木について巧者でなかったとみえて、すっかり葉を弱らし  
 てしまいました。晩方、幹は、地に下ろされましたけれど、葉  
 がすっかり枯れてしまったために、まったく力がなくなつてしま  
 つて、ついに枯れてしまいました。



# 青空文庫情報

底本：「定本小川未明童話全集 2」講談社

1976（昭和51）年12月10日第1刷

1982（昭和57）年9月10日第7刷

初出：「読売新聞」

1920（大正9）年5月7～8日

※表題は底本では、「葉《は》と幹《みき》」となっています。

入力：ぷろぼの青空工作員チーム入力班

校正：江村秀之

2013年10月29日作成

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫 (<http://www.w.aozora.gr.jp/>) で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

# 葉と幹

小川未明

2020年 7月13日 初版

## 奥付

発行 青空文庫

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail [info@aozora.gr.jp](mailto:info@aozora.gr.jp)

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しむ青空ヘルパー <http://aohelp.club/>

※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。

<http://tokimi.sylphid.jp/>